

「地図作りやゲームでも、生徒たちはわからないところを積極的に質問し、意欲的に授業に取り組んでくれた！」一向原中学校3年生に向けた環境授業—食育「食べ物はどこから」

日本女子大学2年 北村 悠

9月16日、気持ちの良い陽気の中、向原中学校での出前授業を行った。内容はフードマイレージに

ついて考えてもらうというもの。今まで小学生を対象にしてきたプログラムということで反省点はあるものの、中学生の反応は良かったように思う。

2クラスに分かれての授業、当日は1、2年生が学年行事のため、学内に生徒が少なく、少々寂しいかと思ったが、元気な3年生の姿はそんな不安を吹き飛ばしてくれた。 …2ページへつづく▶…



### 3大学合同環境教育勉強会を開催 ～大学の環境サークルによる環境教育の質 向上を目指して～

慶應義塾大学2年 野沢 麻美

9月22日、東京大学の環境三四郎、早稲田大学の環境ロドリゲス、慶應義塾大学のE.C.O.という三大学の環境サークルにおいて環境教育に携わるメンバー、そしてSOEの寺田さん、北野さんを交え勉強会を開催しました。「それぞれの活動を知り、高めあい、環境教育の輪を広げよう」このような趣旨のもと熱く濃い時間を過ごしました。

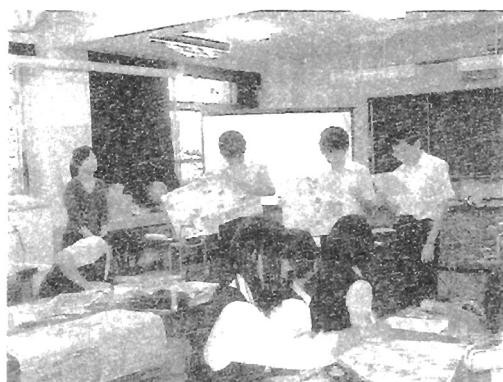
各サークルは独自の様々な活動を行っています。環境三四郎では「みずプロジェクト」というビオトープを利用した環境教育を行っていたり、環境ロドリゲスでは「ecoSMILE」というプロジェクトで小学校へ出前授業を行っていたり、私の所属するE.C.O.では小学生とのごみひろい活動を行っていたり…と環境教育にも様々なカタチがあることを知る良い機会となりました。

SOEの寺田さんに講演をして頂き、その後に講演内容をふまえてワークショップという形でA～Cグループに分かれ環境教育プログラムづくり、そして発表を行いました。A班では「たんぼぼはどこからきたのかな？」と題し、外来植物についての授業案を考えました。B班では「ごみひろいで考える環境問題」ということで身近な環境、3Rについての授業案をつくりました。最後にC班では「フードマイレージと旬を知ろう」というテーマで食についての授業案を作成しました。魅力的な授業を考えることは難しいですが、話し合うことによって新しい発想が生まれ、面白い授業を作り出せるな、と実感しました。

…3ページへつづく▶…

授業は、食材マップ作り、食材選びゲーム、まとめ…という流れ。私はその中でマップの作り方を説明する部分を担当した。実際に大勢の中学生の前で話すというのが初めてだったため、説明用の原稿に頼りすぎてしまったということが反省点。しかし、説明用に作ってあったスライドの効果もあって、説明自体はしっかり聞いてもらえたと思う。地図作りやゲームでも、生徒達はわからないところを積極的に質問し、意欲的に授業に取り組んでくれた。

初の出前授業参加ということで、個人的にはとても緊張していたが、授業後に笑顔で「ありがとうございました！」と言ってくれた生徒達を見て、楽しんで学んでもらえたことを実感することができた。食育に関心が高まっているとはいえ、フードマイレージのように、まだ一般的には知られていないことも多い。今回は、今まで小学生用に作ってきた授業を中学生用にデザインし直した。今後は幅広い層の人に伝える術を模索したい。そんな風に感じた。



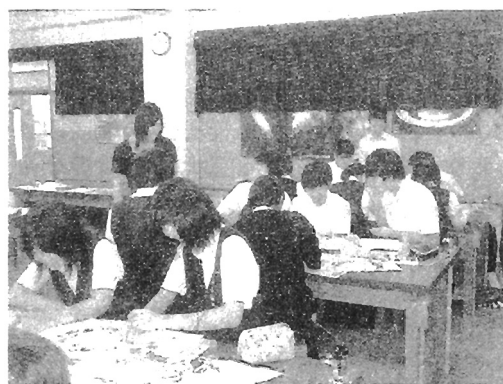
## 「生徒たちは・・・マップ作りや食材選びゲームに夢中になって取り組んでいた」

日本女子大学1年 萱田 裕子

今回の授業の内容は、フードマイレージについてでした。生徒たちは、チラシを切って地図に貼るマップ作りや、選んだ産地に得点がもらえる食材選びゲームに、夢中になって取り組んでいました。これらの作業を通じて、フードマイレージを身近に感じる事ができたと思います。

マップ作りをして、各自気付いたことを用紙に記入しました。その内容を班ごとに話し合い、クラス全体に発表しました。私はグループごとの発表の司会を務めさせていただきました。向原中学校の先生方の補助もあって、スムーズに各班の発表を進めることができました。どの班もいろんな地域からの食料が多いことに気付いていました。

授業の最後に、フードマイレージを減らすための目標を一人ひとりが書きました。授業で学んだことをもとに目標を書くことで、今できる自分の課題を明確化できたと思います。普段の生活のなかにフードマイレージの知識を生かし、地産地消を実行してほしいです。



## 日本女子大学2年 笹野 智加

夏休みも終わりそろそろ受験期に入る3年生の授業ということもあって、私自身どのように授業が進んでいくのか不安でした。ですが教室に入ってくる向原中学校の生徒の方はみんなとても楽しそうだったので、受験に追われてピリピリしているような雰囲気はいささかも感じられませんでした。

今回のフードマイレージの授業では初めての試みとして従来行っていた『産地あてクイズ』をなくし、『マップ作り』から始めました。初対面のスタッフとのアイスブ

レーキングがないにも関わらず作業を進めることができました。また、『産地あてクイズ』がなくなったため作業や作った地図をみて考える時間が多くとれたことも幸いでした。小さいメモ用紙にグループで考えたこと、発見したことが書き込まれていくのを間近でみることができるのは出張授業でスタッフならではと痛感します。また授業の最後に短冊に書きこむのも同様のことを感じます。



このような勉強会の開催は初の試みでしたが参加者それぞれ収穫がある良い機会となりました。これからも大学サークルのつながり、そしてSOEの方々とつながりを大切に、環境教育の発展と向上に努めていきたいと思えます。環境教育の輪を無限大に広げるために私自身も頑張っていきます。



## 「勉強会を終えて」 環境三四郎 岡田 航



今回三校合同勉強会を企画いたしました、環境三四郎の岡田航です。環境三四郎では2007年度から「みずプロジェクト」という活動を行っています。この活動は、小学校における環境教育の授業の実施や、地域間の様々なアクターをつなげるネットワークを構築することにより、学校ビオトープが持続的に保全・活用されていくネットワークを構築することを目指しています。しかし、まだ十分に学生が経験を積んでいないこともあり、これまでは手探りの状態で環境教育の授業プログラムを考えてきました。

そこで、以前より交流のあった早稲田と慶応の環境サークルに声をかけ、環境教育を行っているプロジェクト同士で交流会もかねた合同勉強会を行いました。

この勉強会を行うにあたり、環境教育を行っている専門家の方から教えていただく形をとりたいと考え、SOEの寺田先生に講演していただくことをお願いしました。Sサークルの担当でミーティングを行い、各プロジェクトの問題点を列挙しました。それを踏まえ寺田先生に「子どもたちをいかにひきつけるか」「子どもたちに授業を通して伝えるうえで心がけていること」「学生にどんな授業をしてほしいか。学生へのアドバイス」などを教えていただくことにしました。先生からは環境教育についてご自身の経験も踏まえながら体系的に語っていただき、非常に勉強になりました。

みずプロジェクトのメンバーだけでなく、早慶の学生さんたちからも、「交流できて楽しかった」「多サークルの活動を知ることができて参考になった」等と言っていただけ、勉強会としても交流会としても成功であったと思えます。この経験を今後活かせていけたらと思っています。今回はありがとうございました。



## SOE 北野 翔平

東京大学を中心とする環境三四郎、慶應義塾大学を中心とするECO、早稲田大学を中心とする環境ロドリゲス。9月22日、早稲田大学学生会館にて3つの環境サークルの勉強会・交流会が開かれました。目的は環境教育のプログラム作りの仕方を学び合うこと。小学校への出張授業など独自の環境教育活動を行ってきた各サークルのメンバーが、これまでの活動の報告をするとともに、より良いプログラムの作成に向けたワークショップに参加しました。

勉強会では、センスオブアース代表の寺田茂による環境教育の考え方に関する講演後、3つのグループに分かれて実際の授業プログラム作りが行われました。環境教育の授業プログラム作りで専門性を発揮してきたセンスオブアースは、寺田を中心にグループワークにも関わり、授業を作るサポートをしました。

サークルの枠を外して作られた各グループでは活発な意見交換が行われ、新たにゴミ問題に関するプログラム、外来の植物に目を向けたプログラム、食材の旬から環境を考えるプログラムの3つが完成しました。いずれのプログラムにも体験型学習が盛り込まれており、寺田の示したビオトープなどでの環境居育の実践が印象に残っていたようでした。

今回の勉強会のもう一つの目的は、普段別々に活動している3つのサークルにセンスオブアースを含めた4団体が情報を交換すること、そして、今後の活動で協力していける関係性を作ることでした。ワークショップ終了後、何より多く聞かれた今回作ったこのプログラムを実際の授業として行いたいという意見は、サークルの垣根を越えた今後の協働の第一歩として刻まれた最大の成果だと感じました。

## ◎ S.O.E. 活動報告 (2009年9月)

三 | 曜 | 内 容

- 1 火 板橋区立向原中学校3年全 担任と授業打合せ SOEパンフレット「SOEの環境教育 feel think act ーそしていのちを学ぶ」の原稿校正ミーティング
- 13 日 SOEワークショップ (9月授業準備・エコフードデイの取組) SOE9月号発行作業 2600部発送
- 16 水 板橋区立向原中学校3年A組 B組毎 3~4時間目同時並行授業「食べ物はどこから」ーフードマイレージを学ぶ
- 18 金 板橋区役所4階地域振興課訪問 NPOニュース配布依頼
- 20 日 センスオブアース作一環境教育・学習「今、私がやれることは何だろう」環境教育の意義と授業実践についてプレゼンテーション作成 (~21日まで)
- 22 火 三大学 (早稲田大ロドリゲス・東京大環境三四郎・慶応大エコスマイル) 合同環境学習会・SOE講師「今、私がやれることは何だろう」環境教育・学習と実践授業についてSOEのプレゼンとワークショップ助言を行った。
- 27 日 SOEワークショップと作業ーパンフ「SOEの環境教育 feel think act ーそして いのちを学ぶー」発送作業、エコフードデイの取組みミーティング

## ◎ S.O.E. 活動報告 (2009年10月)

- 2 金 平成21年度第1回 板橋区環境教育プログラム部会参加
- 5 月 SOEニュース原稿関係校正
- 9 金 北区立自然ふれあい情報館主催平成21年度 北区環境リーダー養成講座第2回 「ピオトープを教育に生かす」講師
- 11 日 SOE ワークショップ 10月講演会・授業準備 SOE10月号ニュース発行作業日
- 16 金 日本女子大学人間社会学部文化祭ー一日女祭ーSOE展示 準備
- 17 土 板橋区立中台中学校 科学クラブ活動 指導者 中里直教諭取材
- 18 日 SOE・エコポリスセンター共催「エコライフDAY 取り組みの成功の軌跡」NPO法人川口市環境会議理事長 浅羽理恵氏講演学習会 於エコポリスセンター 2階環境学習室 1時30分~3時30分
- 25 日 SOE ワークショップー10~11月授業準備
- 29 木 出前授業 板橋第七小学校5年全 5,6校時「食べ物はどこからーフードマイレージを学ぶ」
- 30 金 第2回 板橋区環境教育プログラム部会 未定

## ◎ 講演学習会 ◎ 「エコライフDAY」の成功の軌跡 市民・学校・市・事業者・学生の大きな協働の創造 ~NPO川口市環境会議の実践

NPO川口市環境会議が学校の出前授業などを取り組む中で2000年に発案し、取り組みの始まったエコライフDAY。この取組はその後、川口市・川口市教育委員会との共催事業に発展しています。また、その実績が伝わり川口市から埼玉県に推薦され環境大臣賞を受賞しました。

エコライフDAYは、埼玉県内をはじめ徐々に全国各地にも広がっています。

地球温暖化防止対策としてのエコライフDAYをどのように取り組んできたのか、お話を伺い一人一人から市民規模までのライフスタイルを変えていく展望を探ります。

日 時：10月18日(日) 13時30分~15時

会 場：エコポリスセンター 2階環境学習室 (板橋区前野町4-6-1)

講 師：NPO川口市環境会議 代表理事 浅羽理恵 氏

参加費：無料

定 員：30名 (申込順)

申 込：電話・FAX・Eメールで下記へお申込ください

問い合わせ・申込先：エコポリスセンター環境教育推進係 田辺

TEL 5970-5001 FAX 5970-2255 Eメール s-eco-jigyo@city.itabashi.tokyo.jp

主 催：NPO法人センスオブアース・市民による自然共生パンゲア・板橋区立エコポリスセンター

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053  
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp